

## 追跡評価報告書

番 号	26－追跡－011		報告年度	平成26年度			
研究課題名	産地活性化を狙った県独自性の高いカンキツ類の新品種育成						
研究機関	農業技術センター						
研究期間	平成10年度～22年度（13カ年）						
連携機関	京都大学，（独）農研機構果樹研究所						
研究経費	区分	【研究費】		【人件費】		【合計】	
	実績	26,498 千円		201,840 千円		228,338 千円	
	当初	33,324 千円		201,840 千円		235,164 千円	
これまでの 評価結果	実施年度	ニーズ	アプローチ法	事業効果	総合点	新規性 革新性	知的財産権等 取得の優位性
	事前評価	H9	3.7	3.8	3.3	3.6	
	事後評価	H23	3.3	3.8	2.9	3.3	
研究概要	<p>(背景) カンキツは価格の低迷等により厳しい経営状況が続いている。この状況を打開するため産地では優良品種への転換に取り組んでおり、新品種への要望は非常に強い。また、消費者ニーズは、おいしさ、食べやすさ、使い易さ等、多様化している。</p> <p>(目的) 消費者ニーズに対応し、本県産地の気候風土に適応した県オリジナル品種を育成して、カンキツの消費拡大を図り、産地の活性化に貢献する。</p> <p>(開発する技術) 消費者ニーズに対応し、本県の気候風土に適した県オリジナル品種を育成する。</p> <p>(最終目標) ①12～1月出荷の年未年始用、種子無し、良食味のマンダリン新品種を育成する。 ②早期に減酸して寒害回避と高品質化を達成するデコボンの改良を行い新品種を育成する。 ③爽やかで食べやすいブンタンタイプの新中晩柑類の新品種を育成する。</p> <p>(得られる価値) 県オリジナルの新品種により産地を活性化する。新品種により消費者ニーズに応え、カンキツの消費を拡大する。</p> <p>(成果移転計画) 関係機関と連携して現地試験、新技術セミナー、研修会、研究成果発表会等で技術移転を図り、研究成果情報集、HP および学会等で成果を公表して技術移転を図る。</p>						

## 1 成果移転の目標達成度

当課題では、3品種を登録して研究概要に記載した3項目の最終目標を達成した。育成した新品種の移転は、現地試験、新技術セミナー、研修会、研究成果発表会等により行なっている。詳細は次のとおりである。研究開始当初、移転目標は設定していなかったが、移転状況は、①マンダリン新品種「安芸まりん」は、平成22年から実施利用許諾契約をJA広島果実連と締結して、穂木・苗木の供給体制を整えた。②デコポンを早生化した新品種「安芸の輝き」は、平成21年から実施利用許諾契約をJA広島果実連と締結して、穂木・苗木の供給体制を整えた。③ブントタイプ新品種「黄宝」は、地域果樹振興対策会議及び生産者との契約による現地試験を、県内29地点で実施中であり、産地化の検討が活発に行われている。今後は、新技術セミナー、研修会、現地試験等を通じて新品種のPRを活発に行ない、普及拡大を図る計画である。

### 【新技術セミナー・研修会・現地試験】

- ・農業技術センター新技術セミナー、県独自性の高いカンキツ類の新系統の特性紹介。5回。2008～2010
- ・JA広島果実連 品種部会での研修。新品種「黄宝」、「イエローベル」の特性。2013。
- ・蒲刈柑橘振興協会講演会での講演。県育成新品種・新系統の特性紹介。2011。
- ・県育成カンキツ新系統の現地試験。瀬戸田・因島・蒲刈・大崎上島・江田島等。71地点。2007～2014

【研究成果発表会】・広島総合技術研究所研究成果発表会。2012 ・農業技術センター研究成果発表会。2011

### 【研究会での成果発表】

- ・果樹バイテク研究会。3回。2002。2005。2013 ・常緑果樹研究会。3回。2006。2008。2012
- ・広島県バイオテクノロジー推進協議会研究会。2012。

### 【研究成果情報】

- ・広島県立総合技術研究所農業技術センター研究成果情報。12報。2003～2012。
- ・近畿中国四国研究成果情報。3報。2008～2010。

【雑誌記事】・フルーツひろしま誌。3報。2008～2010 ・果樹種苗。3報。2009～2013

【新聞等記事】・広島経済レポート。2011。・日本農業新聞。2010。2011

【論文】・園芸学研究。2報。2008。2012 ・農業技術センター研究報告。2003

【学会発表】園芸学会。14報。2002～2014。

## 2 研究成果の事業効果

### (1) 直接アウトカム（直接的効果）

- ①「安芸まりん」は、平成22年度にJA広島果実連において苗木販売を開始し、平成24年度末までに410本の苗木販売実績がある。現状の苗木販売実績から、推計される平成27年度販売額（累計）は、13,299千円が見込まれる。
- ②「安芸の輝き」は、平成21年度にJA広島果実連において苗木販売を開始し、平成24年度末までに825本の苗木販売実績がある。苗木販売実績から推計される平成27年度販売額（累計）は、58,765千円が見込まれる。
- ③「黄宝」は、尾道市因島、同瀬戸田町、呉市蒲刈町、江田島市等で高接ぎ増殖され、平成26年4月現在、131樹での現地試験栽培が行われており、カンキツが品薄となる4月以降の品種として産地での関心が高い。特に、尾道市因島地区では、地域の中核品種であるハッサク・安政柑に代える品種として、地域果樹振興対策会議が主体となり、現地試験を実施している。現地試験実績から推計される平成27年度販売額（累計）は、366千円が見込まれる。

### (2) 間接アウトカム（間接的効果）

①「安芸まりん」は、年始出荷の付加価値の高い品種として、平成32年度販売額（累計）は40,355千円が見込まれる。②良食味なデコポンの人気は継続して高く、産地は今後も中心的な品目として振興に取り組む計画である。このため、ウイルス病等により衰弱したデコポンの改植時には、寒波に合うリスクの少ない「安芸の輝き」の導入が想定され、今後の普及拡大により（平成29年までの苗木販売数（累計）2,325本の見込み）、平成32年度販売額（累計）は71,537千円が見込まれる。③ブント系品種において、「黄宝」はこれまでの品種にない、種が無く皮が剥き易い等の特性を有し、近年の食べ易さを求める消費ニーズに合致している。現在、活発化している現地試験を円滑な産地化に結び付け（平成29年までの高接ぎ・苗木販売数（累計）834本の見込み）、今後の普及により平成32年度販売額（累計）は、10,015千円が見込まれる。以上3品種の平成32年度販売額（累計）総計は、121,927千円が見込まれる。

本課題では、品種登録に至った上記3品種の他、有望系統として74系統を選定した。これらの系統は、

現在実施中の受託研究で継続して選抜しており、所内および現地試験で評価の高い系統は、順次、品種登録を行う計画である。

(3) インパクト（波及的効果）

TPP等により、農産物の国際競争力の強化が、益々重要な情勢となっている。そのため、我が国の施策『攻めの農業』（「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」2013.12）では、「強みのある農産物」開発のため新品種育成が重点化されている。果実の需要は、生食用が低下し加工用が増加しており、消費者や実需者（外食産業、加工業者等）からは、食べ易さ、使い易さへのニーズが高まっている。

このような情勢の変化に対して、本課題の新品種は、種無し、皮が剥き易い、カットフルーツに向く等の独自の優れた特性を有しており、ニーズに則した需要拡大への貢献が見込まれる。

(4) その他

特になし

3 知的財産権等の活用状況

【知的財産権（育成者権）】

- ①カンキツ新品種「安芸まりん」：平成22年3月11日品種登録 第19246号、平成22年4月から実施利用許諾契約をJA 広島果実連と締結
- ②カンキツ新品種「安芸の輝き」：平成21年3月6日品種登録 第17733号、平成21年4月から実施利用許諾契約をJA 広島果実連と締結
- ③カンキツ新品種「黄宝」：平成24年2月26日品種登録 第22295号

## 個別評価（各センター記入欄）

<p>1 成果移転の目標達成度</p> <p><input type="checkbox"/> A：目標を上回っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B：ほぼ目標どおり達成している。</p> <p><input type="checkbox"/> C：移転は行っているが、目標を下回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> D：移転は進んでいない。</p>
<p>2 アウトカムの目標達成度</p> <p><input type="checkbox"/> A：目標を上回っている。（見込を含む。）</p> <p><input type="checkbox"/> B：ほぼ目標どおり達成している。（見込を含む。）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：目標を下回っている。（見込を含む。）</p>
<p>3 知的財産権等の活用状況</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：実施許諾し、事業化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> B：実施許諾を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> C：知財化（出願等）を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> D：知財化（出願等）を行っていない。</p>
備考：

## 総合評価

<p><input type="checkbox"/> S：成果移転、アウトカムいずれも、目標を上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> A：成果移転、アウトカムいずれも、目標をやや上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> B：成果移転、アウトカムいずれも、ほぼ目標どおりである。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：成果移転、アウトカムいずれも、目標をやや下回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> D：成果移転が進んでおらず、アウトカムはない。</p>
<p>（アウトカムが見込値であり、大きく変動する可能性があるとして想定される場合）</p> <p><input type="checkbox"/>：アウトカムを見極めるため、研究所において追跡評価を継続すること。</p>
備考：